コニカミノルタグループ
2013年（平成 25年）3月期
第1四半期 決算説明会
主な質問と回答

日　時：2012年7月27日（金）18：30～19：30
場　所：野村コンファレンスプラザ日本橋　6F 大ホール

＜ご留意事項＞
「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたものではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。
また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください

■　情報機器事業関連

Q：海外では想定に対し弱含んで着地した事務機器メーカーもあるようですが、貴社はユーロ前提を円高に見直したにも関わらず、通期業績予想を変更していません。この背景には、第2四半期以降のオフィスカラー複合機（MFP）新製品の販売拡大があると思われますが、新製品の特徴など、訴求点を教えて下さい。

A：事務機器を取り巻く環境は決して楽観視出来ませんが、当社の主力商品であるA3カラーMFPは、通常のプリンターの様な売り切りの製品ではなく、直販体制によるOPS（オプティマイズドプリントサービス）の強化やソリューション提供による、オフィスでのランニングコスト削減等をお客様に訴求しています。特に海外において、当社は強固な販売基盤とサービス力を有しています。現在ラインナップを拡充しつつある新製品は、これらのソリューションサービスに適したネットワーク対応性の高さに加え、機器の信頼性も向上しています。また、収益面ではプラットフォーム統一や、自動化ラインを想定した設計により、よりコスト競争力の高い戦略商品となっています。

Q：リーマンショックの際には、MFP販売台数の鈍化要因としてリース与信率の低下がありましたが、現在の欧州ではこのような事態は起きているのでしょうか。

A：リース与信率の低下は、一部の南欧諸国でその傾向が見受けられますが、ドイツ、イギリス、フランスといった中核となる西欧諸国で変調は起きておらず、お客様のMFP置換え予定に遅延は発生していません。

Q：プロダクションプリントのカラー機は、上位機種の販売台数が増加した一方で、総台数では伸長幅が限定的となっていますが、その理由について教えて下さい。

A：上位機種の販売伸長は最大市場である米国で最も顕著となりました。一方で、低～中位機種の販売が伸び悩んだのは、競争激化などが要因ではなく、直前期である11年度第4四半期における販売拡大の反動があったものと認識しています。。

■　産業用材料・機器事業関連

Q：液晶偏光板用TACフィルムは昨年度から好調を維持していますが、今後の先行き懸念はないのでしょうか。また、今後更に販売数量が拡大した場合、生産能力に余裕はあるのでしょうか。

A：TACフィルムを含め、液晶パネル部材全般における価格圧力は強まるものと想定しています。また、競合との競争も今後は激化するものと想定しています。しかしながら、当社が強みとする薄膜製品の販売構成比は拡大しており、価格影響は受けながらも生産効率性を改善し、安定した収益性を確保しています。

Q：TACフィルムに加え、光学系の事業でも収益改善が進んでおり、産業用材料・機器事業としては通期業績予想の約半分をこの第1四半期で達成しています。今回はセグメント別の収益見通しも変更していませんが、今後大きなリスク等を見込んでいるのでしょうか。

A：通期業績予想では、一定の競争激化による価格圧力や需要変動リスクなどは見込んでいますが、大幅に収益が悪化するようなリスクは想定していません。

■　グループ全体

Q：通期業績予想の上期・下期別の内訳は開示されていませんが、第1四半期の業績や第2四半期での主要製品の販売数量前提からすると、収益面では下期により大きく配分されているのでしょうか。

A：情報機器事業における新製品の販売拡大による売上増加や、研究開発費等の費用発生ペースにより、短期間では業績のバラツキが想定される事から、今期は通期のみの業績予想を開示しています。
具体的な数値は開示していませんが、イメージとして、今上期の営業利益の配分としては、昨年度と同様に37％～38％程度を想定しています。

以上